

令和4年度第12回 感染症発生動向調査部会

令和5年3月15日

月番：大西秀典

1 前月の感染症発生動向について（2023年第5週～8週・2月）

<全数把握対象疾患>

- ・ 一類感染症については、発生報告は無い。
- ・ 二類感染症については、結核は今月の報告数は13例で、2019年の同期累計報告数52例、前年の同期累計報告数37例、本年の累計報告数が29例となっており岐阜県下においてはCOVID-19流行後の発生減少が継続している。従来通り基本的には高齢者が多いが、20、30歳台の若年層にも散見される。
- ・ 三類感染症については、腸管出血性大腸菌感染症が1例発生報告があったが、O157の発生は報告がなかった。
- ・ 四類感染症については、レジオネラ症が2例報告されている。
- ・ 五類感染症(性感染症以外)については、ウイルス性肝炎(A型、E型を除く)が1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症が2例、侵襲性インフルエンザ菌感染症が2例、侵襲性肺炎球菌感染症が3例、水痘(入院例に限る)が1例、百日咳が9例報告されている。百日咳について、いずれもワクチン接種歴が3-4回ある幼児あるいは学童であるが、やや多めの発生報告となっており留意すべき事項と思われる。
- ・ 新型インフルエンザ等感染症として、新型コロナウイルス感染症が今月の報告数は16,881例、本年累計82,664例と岐阜県下においても流行が続いてはいるが減少傾向となってきた。

<定点把握対象疾患>

- ・ インフルエンザの定点当たり患者報告数が15.0となっており、前月と同等の発生数で流行が継続している。特に中濃、飛騨地区での発生が多い。
- ・ RSウイルス感染症は県全体での発生数28例、前月比233.3%と増加傾向である。
- ・ 咽頭結膜熱は37例の発生があり、前月比137.0%と若干増加傾向である。
- ・ A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は28例があり、前月比155.6%と若干増加傾向である。
- ・ 感染性胃腸炎は876例の発生があり、前月比153.4%と、前年同期比132.7%で増加傾向であるが、定点当たり報告数が全国平均よりかなり少ない。
- ・ 突発性発疹は前月の発生と同数の31例の報告があり、コンスタントに発生がみられている。
- ・ 流行性角結膜炎は7例の発生があり、前月比233.3%と若干の発生がみられている。
- ・ 基幹定点疾患を含め、その他目立った調査対象感染症の流行はみられていない。

2 検討すべき課題

<事務局から>

- ・ 今シーズンのインフルエンザの流行について（継続）

3 情報提供（月番委員専門分野から）

2023年4月から新生児マススクリーニング追加検査対象疾患が2疾患(ADA欠損症、ゴーシェ病)追加になります。ADA欠損症は原発性免疫不全症の一種であり、罹患者が乳児期に生ワクチンを接種してしまう前に見つけ出すことが重要な疾患です。

4 その他（感染症対策推進課から）

- ・ ノロウイルス食中毒警報の発表について
- ・ 赤道ギニア共和国におけるマールブルグ病の発生に係る注意喚起について
- ・ おたふくかぜワクチン接種後の副反応に関する全国調査への協力依頼について（周知）
- ・ 風しんの追加的対策に係る令和5年度の対応について（協力依頼）
- ・ サル痘に関する情報提供
- ・ 鳥インフルエンザ発生状況

<検討結果>